

4 中期目標(第四期)の構成及び施策の方向性(案)

○大項目及び中項目は、以下のとおりの構成を基本とし、小項目(施策)については、評価委員や市立大学との意見交換を踏まえて、検討を重ねていくもの。

中期目標の基本的な考え方

【内容の方向性】

定款が定める大学法人の「目的」や、市立大学の「教育研究上の理念」の実現に向け、社会的な背景を踏まえながら、目標を明確化する。

大学法人定款「目的」

学術研究の高度化等に対応した職業人の育成
市のまちづくり全体により大きな価値を生み出す
「知と創造の拠点」

大学「教育研究上の理念」

人間重視を根幹とした人材の育成
地域社会への積極的な貢献

社会的な背景

人口減少・超高齢社会の進行、SDGsの推進、脱炭素社会の実現、
デジタル化・DXの実現、健康寿命の延伸、感染症対策 等

第1 中期目標の期間

令和6年4月1日から令和12年3月31日までの6年間

第2 教育に関する目標

1 専門職業人の育成

【施策の方向性】

- ・デザイン・看護の専門性・実践能力を有し、AI・ITの活用力を習得した、自身で考え未来を創造することのできる次代を担う有為な人材を育成する。
- ・デザイン分野において、デザインマインドをもって課題解決に取り組む、地域や仕事の現場で活躍できる職業人を育成
- ・看護分野において、育児支援、社会的弱者に対する虐待防止、感染症への対応など地域特性ある健康課題に向き合い、対応する実践能力を備えた看護職の養成

2 学生に対する支援

【施策の方向性】

- ・学生が希望する将来の実現に向けてキャリア支援を充実するとともに、経済的な事情や障がいの有無等に関わらず多様な学生が良好に修学できるよう支援する。

第3 研究に関する目標

1 市民の実感に結び付く研究の推進

【施策の方向性】

- ・ユニバーサル、ウェルネス、スマート、人口減少緩和など社会課題解決に資する研究を推進し、市民の実感に結び付く成果を追求する。

2 研究機関としての地位向上

【施策の方向性】

- ・AITセンターを下支えとして、先進的で質の高いDNA連携の研究を推進し、研究成果やその活用事例を積極的に公表・発信することで、研究機関としての地位向上を図る。

第4 地域貢献に関する目標

1 地域社会への貢献

【施策の方向性】

- ・企業・団体、他大学、高校、行政機関などとの連携を通して、地域の発展に寄与するとともに、地域課題の解決に向け積極的に取り組む。
- ・大学が培ってきた知的資源の還元や、市立病院をはじめ札幌市行政との緊密な連携により、健康寿命の延伸や防災・減災の取組、地域コミュニティの振興に貢献する。

2 地域産業及び地域医療への貢献

【施策の方向性】

- ・職業人に対するデジタルや看護分野のスキル習得プログラムなど、学び直しの機会の提供により、地域産業及び地域医療を担う人材の育成、創出に取り組む。
- ・産学官連携の取組推進や企業・団体等との活発な交流により、地域に新たな価値を創造し、地域産業の振興や地域医療の充実に貢献する。

第5 教育・研究・地域貢献の取組を推進する大学運営に関する目標

1 国際化・戦略的な広報の推進による大学のプレゼンスの向上

【施策の方向性】

- ・海外での研究論文発表、提携校との交流などを通じて、大学の国際化に取り組む。
- ・教育・研究・地域貢献を推進する大学が持つあらゆる価値の情報発信はもとより、学生・受験生、市民、企業など多様な主体と有益な関係を構築することで、プレゼンスの向上を図る。

2 大学運営の改善・効率化

【施策の方向性】

- ・デジタル化を進めるなど大学運営に関する業務の効率化に取り組み、教職員のワークライフバランスの向上を図る。
- ・大きく変化する社会情勢に、柔軟かつ機動的に対応できるよう戦略的な大学運営を行う。

3 自己点検・評価の実施・公表

【施策の方向性】

- ・教育、研究、社会貢献、組織運営その他の活動について、継続的に点検・評価し、質の保証を行い、絶えず改善・向上に取り組むとともに、社会への説明責任を果たす。

4 財務内容の改善

【施策の方向性】

- ・外部競争資金、寄付金等の自己収入の更なる獲得に取り組む。

5 その他業務運営の適切な遂行

【施策の方向性】

- ・災害や感染症の有事に対し、学生・教職員の安全を確保するとともに、知の拠点としての貢献を図る。
- ・SDGsを推進するとともに、脱炭素社会の実現へ積極的に貢献する。
- ・各種法令の遵守や情報セキュリティ対策により、コンプライアンスの徹底を図る。
- ・国の高等教育政策の動向を踏まえ、入学者選抜試験を円滑実施し、求める学生の確保を図る。